

研修主題 **いい表情の生徒の育成** ～「よりよく伝える力、正しく聞き取る力」の育成を通して～

1 主題設定の理由

(1) 社会的背景から

東北地方太平洋沖地震という激甚災害が日本を襲い、福島県、宮城県、岩手県などに壊滅的な被害をもたらした。また、福島原発からの放射線という目に見えない恐怖が全ての日本人に多くの不安と不信を抱かせた。こんな苦しい状況の中でも、被災した現地の小学生、中学生たちが救われた命を大切にしていこうと様々なボランティア活動に進んで取り組んでいる。各家庭を周り、不安なこと、不足している物品などを調査し対策本部に要求したり、救援物資を高齢者の家庭に配布するために、がれきの山の中を重い荷物を担いでいったりしている。こんなときだからと、今、自分にできることを必死に考え、それを仲間と共に行動に移せる子どもたちがいることこそ素晴らしい。これこそが、これからの日本を「生きる力」ではないだろうか。このような社会的な状況の中で、学校教育が、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことは、ますます重要になっている。

新学習指導要領の総則では、「生きる力」をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむこと、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めることを柱の1つとしている。また、平成 22 年度全国学力・学習状況調査結果からは、「授業で話し合う活動をよく行っている（静岡県 70.6%、全国 55.3%）」で、静岡県の子どもたちは、友だちとのかかわり合いの中で、学びを深めていることがわかる。このことから、自分の考えを表現しあい、共によりよく学んでいくことが重要である。

このような背景から、生徒が自分の考えを「よりよく伝える力」（表現力・言語力）、他者の考えを「正しく聞き取る力」が社会的に求められているのである。

(2) 本校生徒の実態と職員の願い

素直で地道に努力する生徒が多く、学習、部活動などに一生懸命に取り組んでいる。また、地域柄、素朴で周囲との調和を保とうとする生徒が多い。その反面、学校生活において受け身で消極的な生徒もいる。また、自分の考えに自信がもてず、ありのままの自分を表現することが苦手な生徒が多い。そのため、人とかかわりが希薄になり、集団に適応できない生徒もいるのが現状である。

学習面においては、授業の中で自分の持っている考えや自分の学び自体に自信を持たずに、自分の思いを積極的に表現できない生徒も多い。

そこで、このような生徒に対して、まずは自分の考えに自信をもたせるために、教師が学びの結果ばかりではなく、学びの過程を評価していきたい。そうすることで、答えが思うように出せない生徒にも途中までの未完成な考えを認めることで、自信をもたせていきたい。そして、全ての生徒が自分の考えや学びに自信をもって学校生活を生き生きと送ってほしい。

本校の学校教育目標である「**いい表情の生徒**」は、教育活動のあらゆる場面で、その場にあつたいいい表情で学校生活が送れることを願っているものであり、この学校教育目標や職員の願いを具現化するために、今年度の研究主題を『**いい表情の生徒の育成 ～「よりよく伝える力、正しく聞き取る力」の育成を通して～**』とした。

(3) 本校の研修の流れ

平成 18 年度 「いい表情の生徒～一人一人が学びの充実を味わう授業のあり方
～「よりよく伝える」力の育成・個に応じた支援を通して～

平成 19・20 年度 「いい表情の生徒の育成 ～『よりよく伝える力』の育成を通して」

平成 21・22 年度 「いい表情の生徒の育成 『よりよく伝える力、正しく聞き取る力』の育成を通して」

平成 22 年度は、「よりよく伝える力、正しく聞き取る力」の育成を図るために、「伝えたい、聞きたい授業」を視点を、生徒が主体的に学ぶことができる単元構想を設定したり、生徒が思わず学びたくなるような切実な学習課題を設定したりした。研修を進める中で、自分の考えを積極的に表現できる生徒や真剣に他の人の発言を聞き取ろうとする生徒が増えたという良い表れが出てきた。しかし、学んでいく途中で自分の考えに自信の持てない生徒や自分の学び自体に自信の持てない生徒がいることも課題として残った。

そこで、本年度は「学びの過程を評価する授業」を新たな視点に加え、生徒一人一人の学びを丁寧に見取っていき、自分の考えや自分の学び自体に自信を持たせていきたい。そして、「よりよく伝える力、正しく聞き取る力の育成」を目指していきたい。

2 生徒につけたい力

- <よりよく伝える力> … 受け手を意識して、受け手により分かりやすく伝える力
<正しく聞き取る力> … 話し手が伝えたいことやその思いを正しく聞き取る力

3 研究仮説

- (1) 新しい学習評価のための評価規準の作成をすることで、教師自身が生徒に身に付けさせたい力を洗い出し、授業改善につながるであろう。
- (2) 学びの過程の評価を意識した学習目標づくりをすることで、授業の中で生徒一人一人の学びを細かく見取ることができ、生徒一人一人の学びの途中の見方・考え方などを適切に評価することができるであろう。
- (3) 学びの過程を評価されることで、授業の中で自分の考え・学び自体に自信を持つことができ、学習した成果を「伝えたい」と考えたり、他者の意見を「聞きたい」と考えたりするようになるであろう。
- (4) 「よりよく伝える力、正しく聞き取る力」を身に付ける学習活動が展開できたなら、一人ひとりの学びが充実し、「いい表情の生徒」の育成につながっていくであろう。

4 研究内容

授業づくりと学級づくりの両面から「よりよく伝える力、正しく聞き取る力」を身につけるための具体的方策を探る。特に、「学びの過程を評価する授業」を仕組むために、新しい学習評価のための評価規準の作成、学びの過程の評価を意識した学習目標づくりに取り組んでいく。

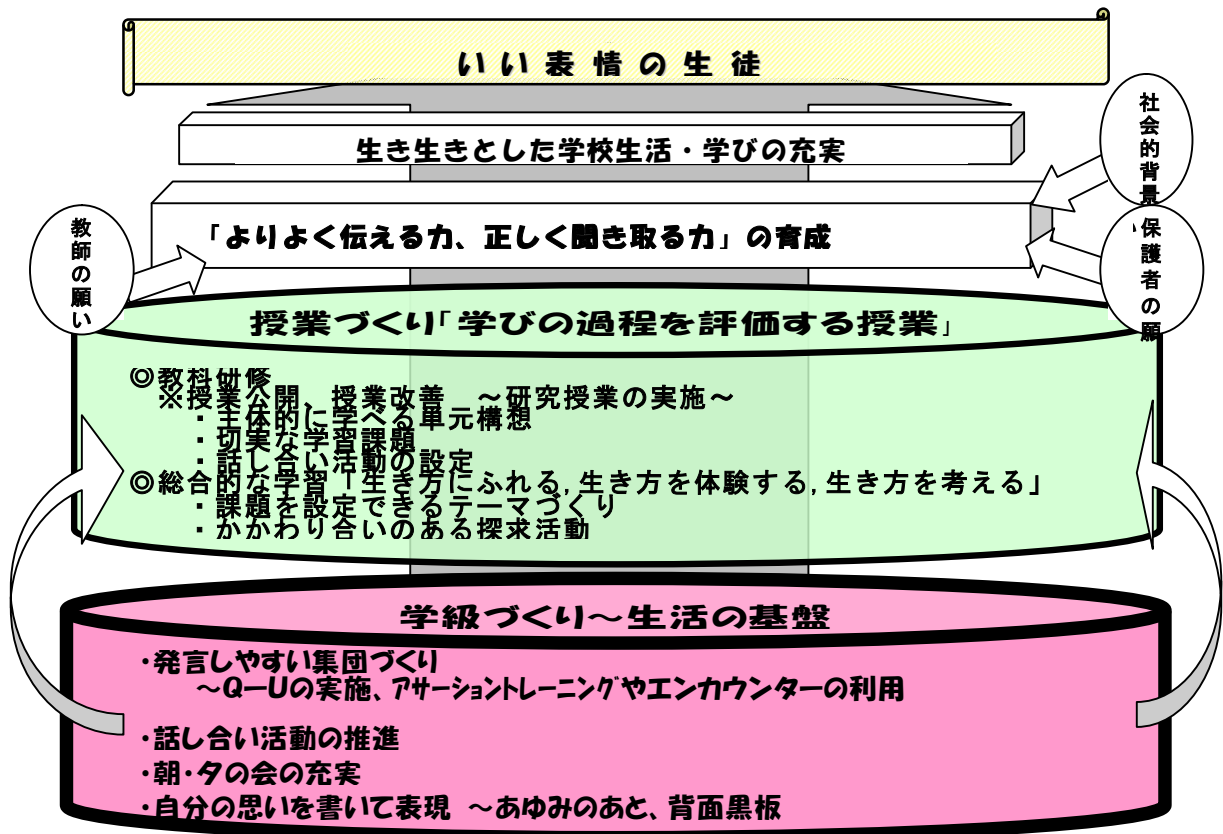
《授業づくり》…「学びの過程を評価する授業」の検討

(1) 教科研修

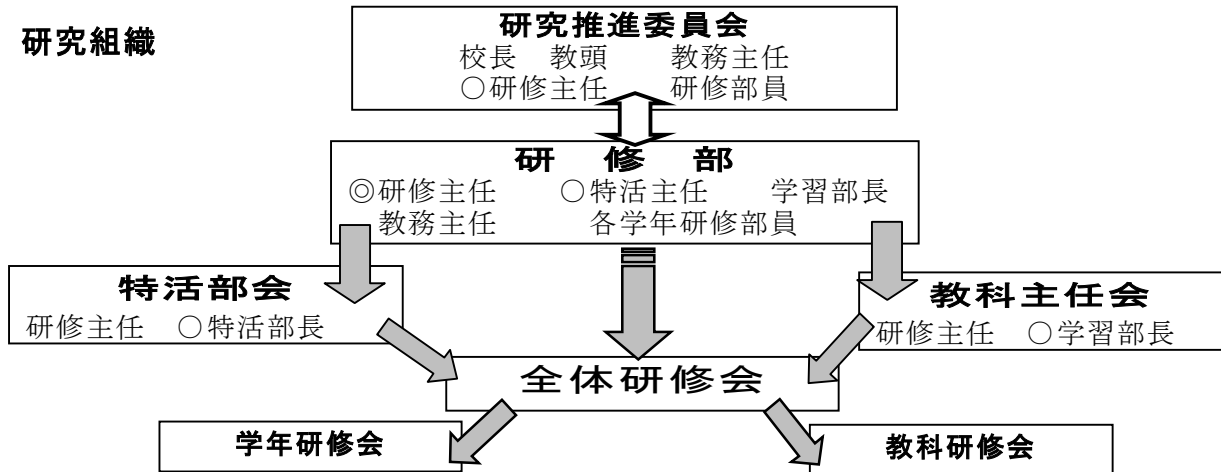
- ・主体的に学べる単元構想の開発
 - ・切実な学習課題の設定
 - ・話し合い活動の充実
 - ・授業を見せ合い、授業改善を図る
- ～全職員による研究授業の実施

(2) 総合的な学習

- ・課題を設定できるテーマづくり
- ・かわり合いのある探求活動
- ・新聞やレポートなど表現活動の場の設定



5 研究組織



6 年間研修計画

月	全体計画	研修内容(全体会)	研修内容 (教科研修・学年研修)	備考
4	校内研修①	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題、基本方針、年間計画等の決定 指導案について 評価について 	教 教科研究主題の決定 学 研究授業計画 本年度の総合的な学習の時間について	4月14日
5				
6	校内研修②	<ul style="list-style-type: none"> 学びの過程を評価する授業について Q-Uテスト研修 通信簿作成について 指導揚力の記入について 	教 学びの過程を評価する授業について<1学期> <ul style="list-style-type: none"> 新しい学習評価のための評価規準の作成 学びの過程を意識した学習目標づくり 	6月8日
8	校内研修③	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育について講和「 」：講師(未定) 	学 Q-Uテストの結果の共有 エンカウンター実践報告 次年度の「総合…」について	8月3日
9	校内研修④	<ul style="list-style-type: none"> 学びの過程を評価する授業について 	教 学びの過程を評価する授業について<2学期> <ul style="list-style-type: none"> その他 6月と同様 	9月7日
10	校内研修⑤	<ul style="list-style-type: none"> 学びの過程を評価する授業について 	教 学びの過程を評価する授業について<3学期> <ul style="list-style-type: none"> その他 6・9月と同様 	10月5日
11				
12	校内研修⑥	<ul style="list-style-type: none"> 学びの過程を評価する授業について 	学 授業反省 教 「学びの過程を評価する授業」の振り返り <ul style="list-style-type: none"> 新しい学習評価のための評価規準の作成 学びの過程の評価を意識した学習目標づくり 	12月7日
1				
2	校内研修⑦	<ul style="list-style-type: none"> H24年度の研修計画 	学 次年度の総合的な学習について	2月1日
3				

☆**教** は教科研修会、**学** は学年研修会

☆全員、授業研究を1回は行う。校内授業シートを全職員に配布し、できる限り参観し合う。また、同教科、学年職員は必ず参観する。校内授業シートは、コピーして授業者と研修主任に提出する。

☆授業反省は、学年研修会で行う。